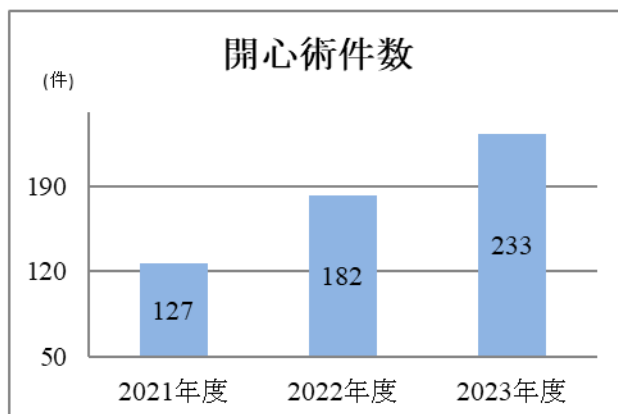
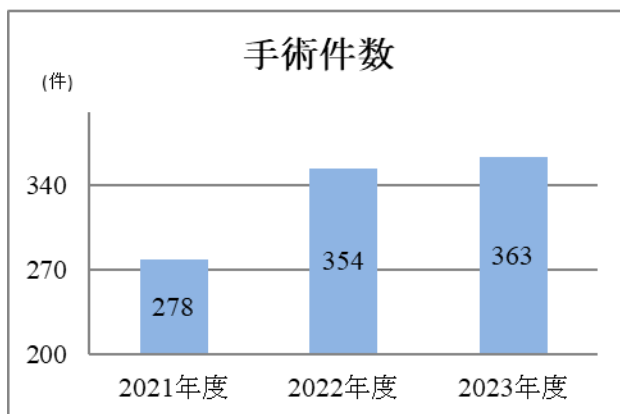
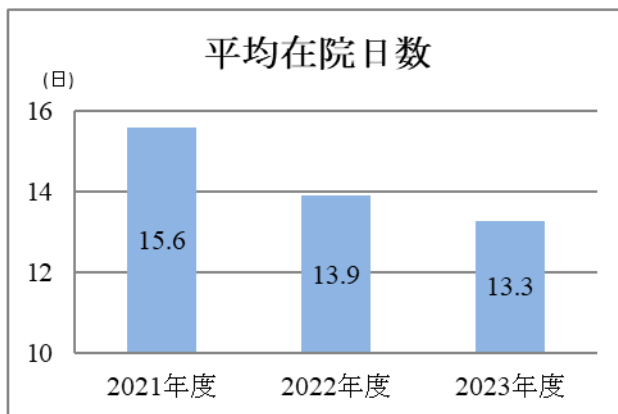
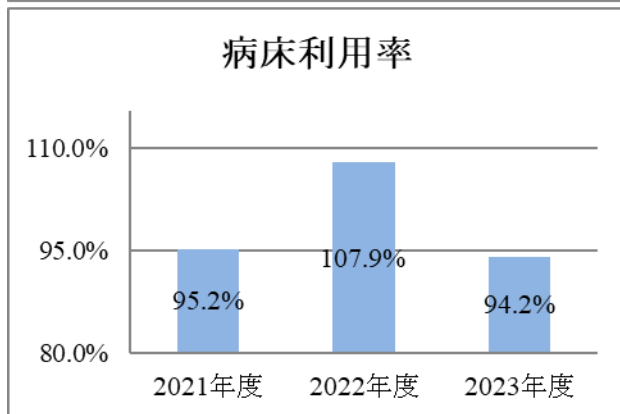
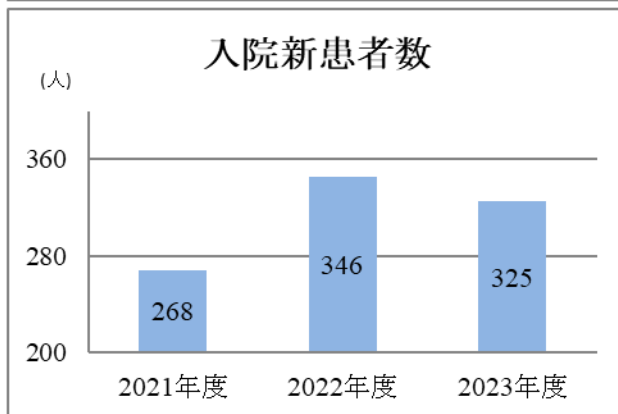
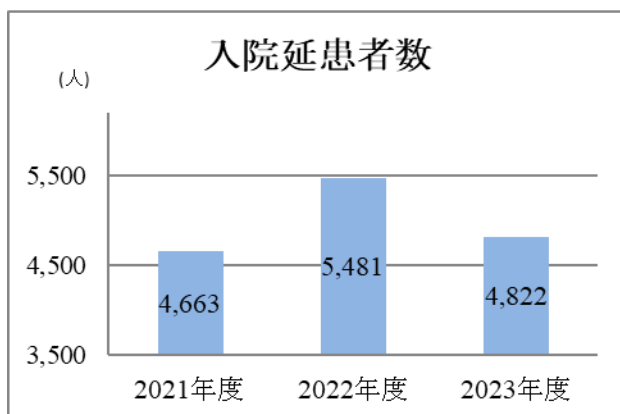
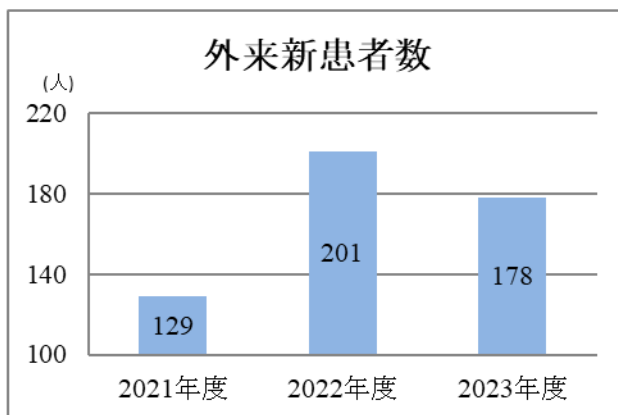
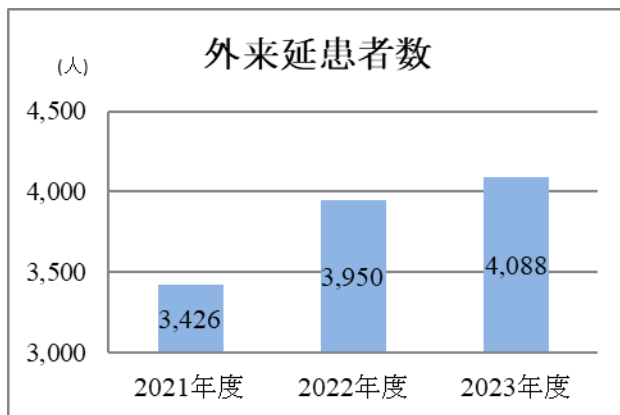


2-14 心臓血管外科

診療実績



診療活動

順天堂大学医学部附属静岡病院心臓血管外科は現在 5 人のスタッフで診療を行っております。診療圏は伊豆半島を含む静岡県東部地域であります。心臓血管外科診療を行う施設は多くありません。一方で地域の高齢化は進んでおり、循環器治療が必要な患者様が多くいらっしゃいます。さらに首都圏と比較しても高齢者、全身疾患や併存症を有する患者様の割合が多いことも特徴です。このようなリスクの高い患者様に対しても大学附属病院の利点である他診療科および多職種との強力な連携のもとで診療を行っております。循環器内科との合同カンファレンス、麻酔科・手術室・集中治療室・臨床工学室との多職種カンファレンスを毎週開催しております。

2023 年度の 1 年間で心臓胸部大血管手術 233 例（TAVI; Transcatheter Aortic Valve Implantation を含む）、腹部大動脈瘤やその他の手術を含めて計 390 例の手術を実施しました。

診療成績については、手術症例数は飛躍的に増加している一方で、平均在院日数は以前と比較して短縮しており、先進的医療の成果と同時に診療成績の向上を示しております。

次年度目標

高齢化に伴い著しく増加している心臓大血管疾患に対する低侵襲治療に力を入れております。

重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁植え込み術（TAVI; Transcatheter Aortic Valve Implantation）が 2022 年より循環器内科とともにハートチームとして開始いたしました。ハートチームとしては現在 2 名の TAVI 指導医、2 名の TAVI 実施医がおり従来の外科的大動脈弁置換術が困難である高齢者や frail 症例に対して、質の高い治療を行っております。

僧帽弁疾患や大動脈弁疾患に対しては小切開や内視鏡で行う低侵襲心臓手術（MICS ; Minimally Invasive Cardiac Surgery）を積極的に行っております。この手術は 3-6cm の小さな皮膚切開から行う弁膜症手術であり順天堂グループの優れた成績を維持しながら低侵襲化に取り組むことに特に力を入れております。さらに 2024 年にはロボット支援下心臓手術を開始いたしました。

低侵襲治療分野においては大動脈瘤に対する開胸手術のみならず血管内治療も症例数が増加しその治療成績も向上しております。大動脈瘤に対するステントグラフトは耐術能に悖る患者様や frail 症例に対して行われる血管内治療ではありますが、従来の開胸手術とともにその成績は良好です。

近年、冠動脈インターベンションの適応拡大に伴い減少している冠動脈バイパス術（CABG）ではありますが、当科の心拍動下に血行再建を行うオフポンプ治療と長期予後を見据えたグラフト選択による CABG は術後の回復も早く、患者様やご紹介いただいた先生方に高い評価を頂いております。そのために遠方からの患者様も多くお越しになり、症例数は増加しております。

その他、地域の特性から大動脈解離、大動脈瘤などの急性大動脈症候群に対する緊急手術も数多く手掛けておりその成績も良好です。大動脈疾患に対しては、従来の開胸手術、ステントグラフト治療あるいは両方の治療を組み合わせることで、救命率の向上だけでなく遠隔期予後の改善も目標として治療を行っており、我々の取組みとその成果を学会に報告しております。

2024 年度も引き続き、臨床面では手術成績の向上により重点を置くこと、TAVI やロボット心臓手術などの先進的な医療を提供できる県東部地域の基幹病院としての地位を確固たるものとする 것을目標といたします。また学術活動もさらに活性化し、静岡病院から世界に向けた研究成果を発信できるよう尽力して参ります。

診療・研究・教育の3分野で、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構における基幹施設にふさわしい活動を年間通じて継続してまいりますので、みなさま方からのご指導・ご鞭撻を今後ともよろしくお願い申し上げます。

研究・教育活動

① 原著（英文）

1. Lee J, Kajimoto K, Yamamoto T, Amano A, Tabata M. Concomitant mitral valve surgery versus no intervention in patients with moderate ischemic mitral regurgitation undergoing coronary artery bypass grafting: a propensity score analysis. Juntendo Medical Journal 2023 69(1)2-41. <https://doi.org/10.14789/jmj.JMJ22-0021-OA>

② 症例報告（英文）

1. Oda R, Oishi A, Kamikawa Y, Hata H, Kajimoto K. Totally endoscopic trans-mitral removal of a left ventricular apical thrombus through right thoracotomy in a patient with subacute anterior myocardial infarction: a case report. Gen Thorac Cardiovasc Surg Cases. 2023. 2:42
2. Oda R, Kajimoto K, Oishi A, Hata H, Kamikawa Y, Matsui Y, Fujita W, Nakamura Y, Singh YS, Shitara J, Takano S, Wada H, Shiozawa T, Ogita M, Wada R, Suwa S. A Case of Floating Aortic Arch Thrombosis in a Patient without Thrombophilia. Ann Vasc Dis. 2023;16:219-222.

③ 学会発表および講演（国内）

1. 大石淳実：AFX 当院での使用経験. AFX Brushup Seminar in SHIZUOKA. 2023 年 1 月 27 日
2. 梶本 完：弁膜症に対する最新の外科治療と術後の日常診療：脂質管理を含めた optimal medical treatment のエヴィデンス. 伊東市医師会学術講演会. 2023 年 2 月 8 日
3. 森田美奈子：FLNA 遺伝子異常による胸部大動脈瘤・大動脈弁閉鎖不全症に対して Bentall+全弓部大動脈置換術を施行した一例. 日本胸部外科学会 関東甲信越地方会. 2023 年 2 月 25 日
4. 梶本 完：当院における TAVI の実際と重症 AS に対する治療戦略の現状. 第 15 回 静岡県東部心臓外科・循環器科連携の会. 2023 年 2 月 10 日
5. 梶本 完：弁膜症に対する最新の外科治療と術後の日常診療：脂質管理を含めた optimal medical treatment のエヴィデンス. 沼津市内科医会講演会. 2023 年 2 月 17 日
6. 梶本 完：胸腺腫に対する拡大胸腺全摘術と僧帽弁形成術を併施した 1 例:Barlow 病に対する bending plasty. 第 48 回静岡県心臓血管外科手術手技ビデオカンファレンス. 2023 年 4 月 22 日
7. 梶本 完：Perfect CABG のための基本手技. 日本冠動脈外科学会学術集会ランチョンセミナー. 2023 年 7 月 14 日
8. 大石淳実：心臓・大血管疾患に対する最新カテーテル治療. 環器疾患×ファブリー病コラボ WEB セミナー. 2023 年 7 月 21 日
9. 梶本 完：弁膜症概論と最新の外科治療：診断から退院後の診療まで, 循環器疾患最新 WEB セミナー. 2023 年 9 月 4 日

10. 梶本 完：進化する心臓病の外科治療：心不全パンデミックに備える地域医療連携．第1回 東部循環器診療連携の会．2023年10月10日
11. 梶本 完：増加する弁膜症と最新の治療．順天堂静岡病院市民公開講座．2023年11月6日
12. 森田美奈子：TAVI後感染性心内膜炎に対するTAVI弁摘出とステント付き生体弁での二弁置換での経験．静岡県心臓血管外科医会 第67回例会．2023年11月18日
13. 大石淳実：FROZENIX 当院での使用方法．プロフェッショナル FROZENIX の流儀．2023年11月28日